

[基本教育科目/人間の理解]

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
学習と行動	NLA11_012	選択	2	1・2・3・4	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
柘木 隆寿	教員控室	t.masaki	授業終了後に質問等受付		
授業の目的・概要	<p><目的>: 医療従事者として必要な「学習」に関する心理学・行動科学の知識を習得する。そして、私たちが暮らす社会における教育制度や学習指導の実践について理解する。 <概要>: 私たちは若い時期だけでなく、生涯において学習し、行動を変化させ続ける。「学び」について理解を深めることは、自分自身の生活の向上、そして他者へのよりよい支援につながる。本講義では心理学・行動科学で明らかにされてきた学習理論についての解説を行う。基本的な学習理論についての知識習得に加え、グループワークやディスカッションも行いながら日常場面や医療場面における特徴的な学習や行動についての理解を深めていく。また、実際の教育現場における諸制度や方法論、そして特別支援教育についても解説を行う。 また、授業方法としては、Microsoft Teams を利用した同時双方向型の遠隔授業を行う。</p>				
学習上の助言	毎回講義に出席し、積極的な態度で受講することを望む。				
教科書	教科書は指定しない。必要に応じて資料を配付する。				
参考書	学習の心理－行動のメカニズムを探る 第2版 / 実森正子 他 / サイエンス社 / 2019年 ベーシック現代心理学 6 教育心理学 第3版 / 子安増生 他 / 有斐閣 / 2015年				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	基本的な学習理論について理解し、具体例を用いてそれを説明することができる		HSU(2)		
②	様々な問題行動の原因について、学習理論の観点から考察することができる		HSU(2)(3)(5)		
③	自分や他者の行動変容について、学習理論を用いた計画を立てることができる		HSU(2)(3)(5)		
④	『教育』に関して幅広い知識を持ち、その現状と課題を説明することができる		HSU(2)(5)(6)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間（時間）		
1	オリエンテーション－「学習・行動、教育とは何か？」について学ぶ。	同時双方向型授業	シラバス・配付資料を熟読し、本講義の概要をまとめる。	3.0	
2	学習の基本的特徴 1：古典的条件づけの基本について学ぶ。	同時双方向型授業	古典的条件づけに関する専門用語を覚え、多彩な日常例を説明できるようにする。	6.0	
3	学習の基本的特徴 2：古典的条件づけの種類と日常例について学ぶ。	同時双方向型授業			
4	学習の基本的特徴 3：オペラント条件づけについて学ぶ。	同時双方向型授業	オペラント条件づけに関する専門用語を覚え、多彩な日常例を説明できるようにする。	6.0	
5	学習の基本的特徴 4：強化スケジュール、反応の形成について学ぶ。	同時双方向型授業			
6	知覚・運動学習について学ぶ。	同時双方向型授業	知覚・運動学習の特徴を調べ、知識の学習と技能の学習の違いをまとめる。	3.0	
7	社会的学習：模倣、観察について学ぶ。	同時双方向型授業	社会的学習の特徴を整理し、日常例を考える。	3.0	
8	学習理論の応用 1：行動療法について学ぶ。	同時双方向型授業	行動療法の種類について、配付資料等を用い調べる。	3.0	
9	学習理論の応用 2：行動分析学について学ぶ。	同時双方向型授業	行動分析の実践例を考える。特別支援教育における行動分析の役割を調べる。	3.0	
10	集団場面における行動について学ぶ。	同時双方向型授業	資料をもとに日常例を考え、専門用語を用いてまとめる。	3.0	
11	学習と動機づけについて学ぶ。	同時双方向型授業	資料をもとに日常例を考え、専門用語を用いてまとめる。	3.0	
12	学習の発達の観点：成人学習理論について学ぶ。	同時双方向型授業	自らが受けてきた教育、学びを振り返り、講義内容と対応づけ整理する。またこれからの自分の学びについて客観的に考察する。	6.0	
13	学校教育の制度、学習指導の方法、教育評価について学ぶ。	同時双方向型授業			
14	特別支援教育について学ぶ。	同時双方向型授業	特別支援教育の実例を調べる。	3.0	
15	これまでの学習の総括を行う。	同時双方向型授業	配付資料をもとに本講義で得た知識・技術を整理する。	8.0	
試	定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照。				

[基本教育科目/人間の理解]

		達成度評価					
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		70	0	0	0	30	100
総合力指標	知識・技術力	30	0	0	0	5	35
	思考・推論・創造する力	30	0	0	0	5	35
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	5	5
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	5	5
		10	0	0	0	10	20
		評価のポイント					フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	講義内容の理解度について、学期末に定期試験を実施し評価する。				学内掲示および Microsoft Teams を利用して、総評や個別のフィードバックを行う。 なお、この定期試験は対面（大学へ登校）での実施を予定している。
	②	✓	学習理論、教育制度に関する専門用語を正しく理解しておく必要がある。ただの暗記ではなく、多様な日常例について専門用語を用いて自ら説明できることが高い評価につながる。				
	③	✓					
	④	✓					
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
その他	①	✓	毎回の講義で Teams 上でのリアクションペーパーの提出を求め、その内容を評価する。リアクションペーパーには講義中に出される課題への解答、および講義内容に対する理解、発見、疑問などのコメントを記述することになる。内容の妥当性や、問題発見能力を評価する。				学内掲示および Microsoft Teams を利用して、総評や個別のフィードバックを行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
備 考							
<p>「教育」を受けることは今の日本では当たり前すぎて、これまで深く考える機会がなかった人も大勢いるだろう。この講義で「教育」、そして「学ぶこと自体」についての見識を広げることは、今後の大学生活だけでなく社会に出てからの人生においてもよい指針となるはずである。</p> <p>講義中に視聴覚資料の閲覧だけでなく、実験や調査をグループワークとして体験することがある。その体験内容や、準備学習で調べてきた事項について簡単なディスカッションなども行い、知識の定着を図る。</p> <p>また、「授業計画」の事前事後学習に該当する「学習課題・学習時間」に付け加え、各回で学習した内容をもとに日々の生活における自分の行動を分析し、その変容可能性について考察および実践する課題を課す（10 時間）。</p> <p>※Microsoft Teams を使用して同時双方向型の遠隔授業を行う。課題ダウンロードや動画視聴などを行ってもらうので、通信容量制限がある場合は通信量に十分に注意すること。 ※今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスが変更される場合がある。特に定期試験の実施に関しては留意しておくこと。</p>							